

## 科学技術情報流通技術基準(SIST)改訂案の意見公募について

平成 21 年 10 月に開催された科学技術情報流通技術基準(SIST)委員会で以下の 2 基準の改訂案が承認されました。

- ・SIST 07-2010 年版「学術雑誌の発行と構成」
- ・SIST 08-2010 年版「学術論文の執筆と構成」

この案に対して皆様のご意見をいただきたく、意見公募（パブリックコメントの募集）を行います。

ご意見は、以下の要領でお寄せください。

なお、いただいたご意見は、そのまま又は要約して、匿名で公開される可能性があります。また、ご意見に対する個別の回答はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

### 【改訂案の入手法】

インターネット又は郵送により改訂案の資料を入手できます。

- ・インターネット  
SIST ホームページ (<http://sist-jst.jp/>) で閲覧・ダウンロードできます。
- ・改訂案冊子の郵送  
以下の【ご意見の提出先】までご連絡ください。

### 【ご意見の提出様式】

以下の内容を必ず含めて、お寄せください。

- ・住所
- ・氏名、年齢
- ・連絡先（電話番号／FAX 番号／電子メールアドレスのいずれか）
- ・職業
- ・件名  
「SIST 07(案)の〇〇〇〇について」のように明記願います。
- ・ご意見

※ 末尾のページの FAX 様式をご参考にしてください。

※ ご提示いただく個人情報、ご意見の内容に不明な点があった場合の連絡等の意見募集に関する業務にのみ使用させていただきます。

### 【ご意見の提出先】

郵送、FAX 又は電子メールのいずれかの方法でご提出ください。

- ・宛 先：科学技術振興機構 研究基盤情報部 調査普及課 SIST 係
- ・住 所：〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3
- ・FAX 番号：03-5214-8420
- ・電子メールアドレス：sist@jst.go.jp

※ 電話でのご意見の受付はいたしかねますので、ご了承下さい。

#### 【ご意見の受付期間】

平成21年11月10日（火）～平成22年1月31日（日）必着

## 改定案の概要

#### 【SIST 07 改訂の経緯と概要】

学術雑誌は、学術研究の成果を発表及び記録・保存するための主要な媒体として、国内外を問わず、学術出版社、学協会、研究機関等から発行されています。研究成果である学術論文を確実に引用・検索・識別できるようにするために、学術雑誌には一定の構成やその要素の記載方法が求められ、それらの基準を定めた「学術雑誌の構成とその要素(SIST 07-1985)」が1985年3月に初めて制定されました。

その後、改訂されることなく二十数年が経過しました。この間、電子出版の普及など技術的な変化はあったものの、学術雑誌の発行が冊子体を主体として行われている間は、学術雑誌の構成自体を見直す必要性は生じませんでした。

しかし、近年の電子ジャーナル出版の本格化により、冊子体と電子版との関係を整理し、また、電子ジャーナル出版に固有の要素を標準化する必要性が生じるとともに、モノとしての学術雑誌の構成にとどまらず、プロセスとしての発行に関するガイドラインの必要性が生じてきました。このような背景の下に本基準の見直しを行い、「雑誌の発行」に関する節を新設し、基準名を「学術雑誌の発行と構成」と改めるとともに、電子雑誌について各項で新たに補足する他、内容についてもやや踏み込んだ改訂を行いました。

本基準は、主として学術雑誌を想定して記述していますが、学術会議録、論文集、技術報告シリーズ・ディスカッションペーパーシリーズ等の学術出版物に対しても共通に適用可能な項目を多く含んでおり、幅広い学術出版物の編集者及び出版者に指針を与えるとともに、学術論文の引用・検索・識別を行おうとする研究者の参考となるものです。

#### 【SIST 08 改訂の経緯と概要】

学術論文は、学術研究の成果を発表及び記録・保存するために執筆され、学術雑誌やその他の学術出版物に掲載されて発行されています。学術情報流通の観点から、学術論文を確実に引用・検索・識別できるようにするために、学術論文には一定の構成や記載方法が求められ、それらの基準を定めた「学術論文の構成とその要素(SIST 08-1986)」が1986年3月に初めて制定されました。

その後、改訂されることなく二十数年が経過しました。この間、電子出版の普及など技術的な変化はあったものの、学術雑誌の発行が冊子体を主体として行われている間は、学術論文の構成自体を見直す必要性は生じませんでした。

しかし、近年の電子ジャーナル出版の本格化により、学術論文を構成する新たな要素を

標準化する必要性が生じてきました。また、従来のページ体裁とは異なる体裁の電子ジャーナルが定着してきたため、学術論文の要素の記載要領をも見直す必要性が生じてきました。さらには、研究倫理に関する関心の高まりに応じて、モノとしての学術論文の構成にとどまらず、行為としての執筆に関するガイドラインが必要となってきました。このような背景の下に基準の見直しを行い、「論文の執筆」に関する節を新設し、基準名を「学術論文の執筆と構成」と改めるとともに、構成要素に電子的補助資料等を追加し、内容についてもやや踏み込んだ改訂を行いました。

本基準は、主として学術論文を想定して記述していますが、それ以外の学術的文章（総説・解説、啓蒙・入門記事、技術報告・研究ノート等）に対しても共通に適用可能な項目を多く含んでおり、幅広い学術的文章の著者の指針となるとともに、論文執筆要領等を作成しようとする学術出版物の編集者及び出版者の参考となるものです。

## 科学技術情報流通技術基準（SIST）

科学技術の進歩には、情報は欠かすことができないものです。そして、その情報が円滑に流通・伝達することもまた重要なことです。このために有効な施策の一つとして、情報や情報流通技術を標準化することがあげられます。日本においては、1969年（昭和44年）の科学技術会議で「科学技術情報の全国的流通システム(NIST)」構想が提示され、これを受けて旧科学技術庁（現在は文部科学省）は、1973年（昭和48年）に科学技術情報流通技術基準検討会を設置し、それ以降、科学技術情報流通技術基準(SIST：Standards for Information of Science and Technology)の制定・普及を行ってきました。

科学技術振興機構（JST）は、1978年（昭和53年）より基準原案の作成・見直し等の作業を担当し、2003年（平成15年）10月には、文部科学省からSIST事業全体の移管を受け、科学技術情報流通技術基準委員会を設置して、SIST事業を実施しております。

現在、以下に示す14の基準が制定されています。

SIST 01-1980 抄録作成

SIST 02-2007 参照文献の書き方

SIST 03-1980 書誌的情報交換用レコードフォーマット（外形式）

SIST 04-1983 書誌的情報交換用レコードフォーマット（内形式）

SIST 05-2007 雑誌名の表記

SIST 06-2007 機関名の表記

SIST 07-1985 学術雑誌の構成とその要素

SIST 08-1986 学術論文の構成とその要素

SIST 09-1987 科学技術レポートの様式

SIST 10-1985 書誌データの記述

SIST 11-1990 数値情報交換用レコード構成

SIST 12-1990 会議予稿集の様式

SIST 13-1992 索引作成

SIST 14-2001 電子投稿規定作成のためのガイドライン

(※ これらの基準はSIST ホームページ (<http://sist-jst.jp/>) でご覧いただけます。)

